

投資の基礎講座 「円キャリートレード」

最近の為替市場で円が海外通貨に対して急激に円高になり、「円キャリートレードの巻き戻しの動き」などといわれるなど「円キャリートレード」という言葉がよく話題になります。株式投資や外債・外貨預金への投資をするにあたって為替の動きにも関心を持つことが大事です。

「円キャリートレード」とは、低金利の円で投資資金を調達し、それを外貨に換えて高い収益が期待できるものに投資する手法のことです。主に海外のヘッジファンドによって行われていますが、彼らは低金利国の通貨で投資資金を調達し、それを高いリターンが期待できる国で運用するというをしています。彼らの投資対象は、株式、債券、商品、不動産など非常に多岐に亘っています。

「円キャリートレード」が行われる条件としては、日本の低金利状態が長期間続くという見方ができることに加え、将来的に為替相場が円安に振れる可能性が高いという見方ができることも必要になります。なぜなら、「円キャリートレード」は、円を外貨に換える時点の為替相場と、その外貨を再び円に換える時点の為替相場との為替差益をも狙う取引だからです。円に戻す時に円高になっていては、外貨で有利に運用できたとしても為替の差損で利益が吹っ飛んでしまうことがあるからです。

上海の株式相場の下落をきっかけに円高にもなり、「円キャリートレードの巻き戻し」もあつたようです。米景気が減速するのではないかと観測から将来のドル安、つまり円高になることを懸念し、ドルでの運用をやめて借りていた円を返済しようとする動きが急激に行われたためです。

先週の金融市場データ

週間高低表(終値ベース)	週初	高値	安値	週末終値
日経平均株価	16,642.25円	17,164.04円	16,642.25円	17,164.04円
TOPIX	1,662.71	1,730.31	1,662.71	1,730.31
東証1部単純平均	451.03円	468.65円	451.03円	468.65円
東証1部売買高	3,026,090千株	3,190,800千株	2,574,000千株	3,190,800千株
ニューヨークダウ平均	12,050.41ドル	12,276.32ドル	12,050.41ドル	12,276.32ドル
NASDAQ	2,340.68	2,387.73	2,340.68	2,387.55
10年国債利回り	1.620%	1.625%	1.605%	1.605%
債券先物中心限月	135.24円	135.28円	134.40円	134.40円
無担保コールO/N	0.448%	0.529%	0.431%	0.529%
円TIBOR 1ヶ月	0.64273%	0.64364%	0.64273%	0.64364%
円TIBOR 3ヶ月	0.67182%	0.67182%	0.67091%	0.67182%
ドル/円相場	115.31円	117.36円	115.31円	117.36円
ユーロ/円相場	151.55円	154.29円	151.55円	154.29円
1ユーロ=ドル	1.3140ドル	1.3169ドル	1.3121ドル	1.3144ドル
米国FFレート	5.2500%	5.2500%	5.2500%	5.2500%
米国10年国債利回り	4.49%	4.59%	4.49%	4.59%

スーパー定期(ニュー定期)金利表

平成19年3月12日現在

	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	1年	2年
群馬銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.35%
東和銀行	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.35%
高崎信用金庫	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.40%
郵便局	0.25%	0.25%	0.27%	0.35%	0.35%

ヘッジファンド

ヘッジファンドのもともとの目的は、株や債券など伝統的投資手法などとは違い、相場が低迷・逆転した場合でも損失を抑え、下げ相場の中でも一定のリターンを上げる商品は作れないかというニーズから生まれました。「ヘッジ」とは「損失から保護する」という意味があり、ヘッジファンドは、上げ相場と下げ相場の両方の局面でプラスのリターンを出すことが可能な運用手法です。

先物取引やオプション取引などを活用し、レバレッジ(てこの原理)を利かせ投資金額の何倍(何十倍)もの投資を行います。わずかな価格の変動で大きく利益や損失が変わりますので、相場が変化すると一斉に取引を手仕舞うことがあり、株式市場や為替市場などの変動を大きくする要因にもなっています。

今週の株式相場見通し

先週の株式市場は、世界同時株安の連鎖が続き日経平均が急落して始まりました。日経平均株価が16500円に接近すると、値頃感から押し目買いの動きが出てきたことや円買い戻しが一巡したこと、1月の機械受注が事前の予想を上回ったことなどから日経平均株価は17100円台に値を戻しました。

今週の株式相場は、世界株安の連鎖は一服したと思われるものの、戻り売りに上値を抑えられることから小幅な値動きとなりそうです。日経平均株価は17500円程度が目先の戻りの目処と思われます。

先週は鉄鋼株や非鉄株が堅調な値動きとなりましたが、為替相場が落ち着いてきたことから輸出関連株を買う動きが強まりそうです。相場全体としては一進一退の値動きになるものと思われます。

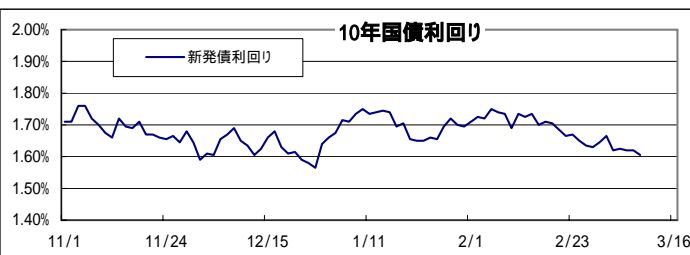
今週の債券・為替相場見通し

先週の債券相場は、株安や円高の動きを受け「質への逃避」から債券相場は堅調な展開となりました。10年国債利回りは一時1.6%を割り込む水準まで買われました。

今週の債券相場は、10年国債利回りが1.6%を大きく割り込んでいくには警戒感がある一方、金利先高感が薄れていることから比較的狭いレンジでの展開が予想されます。10年国債利回り1.58~1.62%程度で大きな値動きは無いものと思います。20年債などの超長期債は利回りの低下が続き、イールドカーブのフラット化がさらに強まるのが想定されます。

先週の為替相場は円キャリートレードの巻き戻しの動きから1ドル=115円台前半まで円が買い戻されましたが、徐々に円キャリートレードが復活し117円台後半まで値を戻しました。

今週の為替相場は、米景気の先行きに対する警戒感があるものの、海外金利差は未だ大きいことから円を買う動きは小さく、1ドル=117~118円50銭程度での推移となりそうです。



本資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。ここに記載されているデータ、は信頼できる各種情報源から入手したものであり、その正確性や完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された見解や予測等は資料作成時点における個人的意見であり、ライフプラン21が保証するものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。

CFP®, CERTIFIED FINANCIAL PLANNER®およびサーティファイドファイナンシャルプランナー®は、米国外においてはFinancial Planning Standards Board Ltd. (FPSB)の登録商標で、FPSBとのライセンス契約の下に、日本国内においてはNPO法人日本FP協会が商標の使用を認めています。